

(案)

第4次国有林野施業実施計画書

(静岡森林計画区)

計画期間 自 平成22年4月 1日
至 平成27年3月31日

関東森林管理局

目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
(6) 伐採総量	4
(7) 更新総量	5
(8) 保育総量	5
3 林道の整備に関する事項	6
4 治山に関する事項	7
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	8
(1) 保護林の名称及び区域	8
(2) 緑の回廊の名称及び区域	8
6 レクリエーションの森の名称及び区域	9
7 その他必要な事項	10
(1) 施業指標林、試験地等	10
(2) フィールドの提供	11
(3) その他	12

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

(単位：面積ha、伐期齢 年)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ 長伐期	486.96	伐採面積の縮小、モザイク的配置	90
スギ 分散伐区	224.26	〃	45(55)
ヒノキ 長伐期	1,446.87	〃	100
ヒノキ 分散伐区	634.34	〃	60
ヒノキ枝打分散伐区	—	—	—
アカマツ 長伐期	—	—	—
アカマツ 分散伐区	—	—	—
カラマツ 長伐期	82.00	伐採面積の縮小、モザイク的配置	100
カラマツ 分散伐区	—	—	—
スギ 複層林	17.24		45～90
ヒノキ 複層林	108.66		60～120
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ分散伐区	—	—	—
ぼう芽 分散伐区	—	—	—
天然林漸伐分散伐区	151.17	伐採面積の縮小、モザイク的配置、伐採率の縮小	70
ブナ漸伐 分散伐区	—	—	—
択伐	4,711.47		回帰年は定めない
その他	331.22		定めない
施業群設定外	—	—	—
合計	8,194.19		

(注) 1 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の発揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

2 伐期齢又は回帰年の()書きは、川根本町に適用。

(3) 水土保全林(水源かん養タイプ)における施業群別の上限伐採面積

(単位: ha)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	27	
スギ分散伐区	20	
ヒノキ長伐期	72	
ヒノキ分散伐区	53	
ヒノキ枝打分散伐区	—	
アカマツ長伐期	—	
アカマツ分散伐区	—	
カラマツ長伐期	4	
カラマツ分散伐区	—	
スギ複層林	2	
ヒノキ複層林	9	
その他複層林	—	
天然生アカマツ分散伐区	—	
ぼう芽分散伐区	—	
天然林漸伐分散伐区	11	
ブナ漸伐分散伐区	—	
択伐	471	
その他	33	
施業群設定外	—	
合計	702	

(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位：面積ha、伐期齢年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ大径材	—	—	—
スギ中径材	41.58	一般建築材(22-26cm)	45(55)
ヒノキ大径材	—	—	—
ヒノキ中径材	128.00	一般建築材(22-24cm)	60
ヒノキ無節柱材	—	—	—
アカマツ大径材	—	—	—
アカマツ中径材	—	—	—
カラマツ大径材	—	—	—
カラマツ中径材	—	—	—
スギ複層林	—	—	—
ヒノキ複層林	—	—	—
その他複層林	—	—	—
天然生アカマツ中径材	—	—	—
ぼう芽	—	—	—
天然林漸伐	—	—	—
ブナ漸伐	—	—	—
択伐	—	—	—
その他	—	—	—
生産群設定外	—	—	—
合計	169.58		

(注) 1. 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当該森林計画区の「資源の循環利用林」は分収林が大部分であり、標準伐採量は定めないこととする。

(6) 伐採総量

(単位：面積ha、材積)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計	
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計			
水 土 保 全 林	国土保全タイプ	906	16,041 (165.22)	16,947	2,900	60,804	-	60,804	
	水 源 か ん 養 タ イ プ	スギ長伐期	-	5,016					5,016
		スギ分散伐区	-	3,986					3,986
		ヒノキ長伐期	-	14,820					14,820
		ヒノキ分散	-	11,601					11,601
		スギ複層林	-	10					10
		ヒノキ複層		3,151					3,151
		天然林漸伐分散 伐区							
		択 伐	-	626					626
		そ の 他	-	1,107					1,107
		小 計	-	40,317 (402.62)					40,317
		計	906	56,358 (567.84)					57,264
森林と人との共生林	自然維持タイプ	-	330 (4.74)	330					
	森林空間利用 タイプ	-	310 (4.07)	310					
	計	-	640 (8.81)	640					
資源の循環利用 森林	スギ中径材	6,073	765	6,838	1,000	22,008	-	22,008	
	ヒノキ中径材	4,911	9,259	14,170					
	計	10,984	10,024 (71.57)	21,008					
合 計		11,890	67,022 (648.22)	78,912	3,900	82,812	-	82,812	
年 平 均		2,378	13,404 (129.64)	15,782	780	16,562		16,562	

(注) () は、間伐面積である。

(7) 更新総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	—	—	—	—	—	—	15.08	15.08
	複 層 林 造 成	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	15.08	15.08
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	5.72	—	5.72	—	—	—	—	5.72
	ぼ う 芽	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	5.72	—	5.72	—	—	—	—	5.72
合 計		5.72	—	5.72	—	—	—	15.08	20.80

(8) 保育総量

(単位：h a)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
保 育	下 刈	—	8.60	8.60	—	—	—	45.24	53.84
	つる切	—	7.20	7.20	—	—	—	—	7.20
	除 伐	5.02	31.33	36.35	—	—	—	—	36.35

3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設 ・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	改良	大井川(梅地)林道	914	200	3箇所
		大井川(大井川)林道	936外	100	3箇所
		大代(大代)林道	1218外	1,000	舗装外
	小計	3路線		1,300	
その他	改良	峰野林道	923	50	2箇所
		湯山林道	666	50	2箇所
		荻間黒俣併用林道	1206	300	舗装
	小計	3路線		400	

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
617、664、667	保安林の整備	そ の 他	14ha
305、307、326、327、328、 329、936	保 安 施 設	溪 間 工	48箇所
305、307、308、326、327、 328、329、617、936		山 腹 工	
合 計	保安林の整備		14ha
	保 安 施 設	溪間工・山腹工	48箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

当計画区には、動植物の保護、遺伝資源の保存等を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定し、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保護、保存を図っていくこととする。

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等
森林生態系 保護地域	南アルプス 南部光岳	既設	保存地区 (1,827.27)	732 全 763 い ₂ 、ろ ₂ 764～766 全 767 い ₂ 、ろ ₂ 770 い、ろ、イ 771～776 全 777 い	この地域は長野県に接する、南アルプス最南端に位置する。光岳、加加森山、中ノ尾根山など2000mを超える一帯は、大井川に流れ込む寸又川の源流部にあたる。 この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、原始的な自然状態が維持されていることに加え、本州中部の太平洋側における山地帯から高山帯に至る典型的な垂直分布が残されている。 これらの原始的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資する。
			保全利用地区 (1,117.23)	730 全 731 全 733 全 734 全 763 い ₁ 、ろ ₁ 、 は～ぬ 767 い、イ、ロ 769 全 770 ろ 777 ろ～に 778 全 779 い、ろ 780 い～は、と	
小計			2,944.50		
森林生態系保護地域計			2,944.50		
植物群落 保護林	安倍峠 オオイタヤマ メイゲツ	既設	10.19	313 い ₁	オオイタヤマメイゲツが群生し、大径木も多く見られる、希少性が高い森林。
	大平 コウヤマキ	既設	0.04	332 に ₂	弘法大師にまつわる伝承があるコウヤマキの大木がある。
	梅地の アカマツ林	既設	0.83	921 に 922 ほ	この地域において貴重な天然アカマツが群生し、大径木も多く見られる。
植物群落保護林計			11.06		
合計			2,955.56		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然 観 察 教 育 林	飛 竜 橋	既設	251.87	<p>この森林は、寸又川と大間川の合流点付近を中心とする溪谷風景が、天然林、人工林と相まって優れた自然景観を呈している。</p> <p>下流には寸又峡温泉があり、散策や自然観察の場として多くの人が訪れており、また、南アルプスへの登山口としても利用されている。</p> <p>今後、町と連携して整備を推進し、安全に利用できるようにする。</p>	601 ろ、は	育成単層林 施業
					667 は～な、 う～お	
					668 は～り	
					601 い、に、ほ	天然性林 施業
				667 い ₁ ～ろ、 ら、む		
				668 い、ろ		
					837 い～ほ、と、 り	林地以外
				838 い		
				601 イ、ロ		
					667 イ、ロ、ホ、 ト	
					668 イ	
					837 イ、ロ	
自然観察教育林			251.87			
風 致 探 勝 林	千 石 平	既設	265.42	<p>雨水等で浸食作用が進む急傾斜地の多い当地域で、山犬段と呼ばれる、稜線部でありながら平坦な地形が特徴の場所である。明石山脈の雄大な景観や千石平に広がるモミ、ツガ、ブナを主とする天然林の優れた景色を眺望でき、自然探勝の場として利用されている。</p> <p>今後、利用者の安全に配慮し巡視の強化に努めることとする。</p>	615 ろ	天然性林 施業
					616 い	
					617 ろ、は	
					618 い	
					619 い、た	
					620 い、ろ	
					621 い、ろ	
					622 い	
					628 は、に	
風 致 探 勝 林			265.42			
合 計			517.29			

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業指標林	人工林間伐 施業指標林	昭 63. 4	1. 92	920 ろ ₃	林業技術の定着及び普及並びに充実を図る。
施業指標林計			1. 92		
試験地	天然林除伐 施業試験地	平 3	6. 00	801 へ内	有用広葉樹の密度管理の統計資料を収集し、育成技術の確立を図る。
	〃	平 3	5. 50	810 と ₁ 内	広葉樹二次林における目的木の管理育成技術の確立を図る。
	大代ヒノキ 収穫試験地	昭 24. 12	1. 48	1222 に	成長量、収穫量及びその他の統計資料を収集し、林分構造の推移を解明する。
試験地計			12. 98		
展示林	サンプルセコイア 展示林	平 4. 9	0. 25	1213 ほ	外国樹種を導入している高齡の林分
	複層林施業展示林	昭 63. 4	0. 88	1225 と	施業を行った林分等を長期的に存知し、森林施業についての広報等に利用
展示林計			1. 13		
次代 検 定 林	一般時代検定林	昭 55. 5	1. 26	635 わ	(関東44号)
	〃	昭 53. 3	0. 62	1216 ち ₂	(関東36-1号)
	〃	昭 53. 3	0. 35	1216 と ₂	(関東32号)
次代検定林計			2. 23		
試植 検 定 林	スギ試植林	昭 44. 3	0. 60	922 ぬ	(関東レ号)
試植検定林計			1. 07	1031 か ₆	(〃)
遺伝子 保存林	ヒノキ 遺伝子保存林	昭 57	0. 95	667 は	
	〃	昭 44. 5	0. 65	778 は	

種 類	名 称	設定年	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	備 考
	ク マ ス ギ 遺 伝 子 保 存 林	昭 46. 4	6.78	805 ろ ₂	
	ウ ラ ジ ロ モ ミ 遺 伝 子 保 存 林	昭 45. 4	5.30	816 ろ ₂	
	ヒ ノ キ 遺 伝 子 保 存 林	昭 57	1.06	923 ほ	
遺 伝 子 保 存 林 計			14.74		
精 英 樹 保 護 林	スギ千頭2号	昭 33.12	0.10	946 ぬ	
	スギ千頭3号	昭 36.11	0.12	935 へ	
	スギ千頭4号	昭 36.11	0.15	666 そ	
	スギ千頭101号	昭 41.12	—	610 ろ内	
	スギ掛川1号	昭 37. 1	0.07	1209 ほ	
	ヒノキ千頭1号	昭 33.11	0.18	899 と	
	ヒノキ千頭2号	昭 35.12	0.07	912 と	
	ヒノキ千頭5号	昭 36.11	0.05	635 ほ	
	ヒノキ掛川1号	昭 37. 1	0.12	1218 り	
精 英 樹 保 護 林 計			0.86		
合 計			34.46		

(2) フィールドの提供
該当なし。

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (ha)	施 業 方 法
602 ろ、は、ほ～る 833 に 834 ろ、は 1211 い 1218 ち ₁ 、り、ぬ 1223 い、か		育 成 複 層 林 施 業
602 い～に 699 と 670 ろ 830 い、ろ 833 い、ほ 834 い、に 1212 に 1222 ほ 1223 ぬ		天 然 生 林 施 業
667 ハ、ニ 830 イ 833 イ		林 地 以 外
計	129.88	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。